

日本人と中国人

陳氏の本より予備知識

全体に流れているのは「似て非なる存在」日本人と中国人の「違い」

- 1、儒教は中国で生まれた思想の体系、生活規範の体系であり生活そのものであった。
儒学とは科挙官僚制による支配の正当化観念で権力と結びついている。
新井白石が儒官としてぬきんでていた。
土壌が全く違う日本に、儒学という観念だけが輸入された。此の為政治と密着することはなかった。
- 2、道しるべを作っていた民族と道しるべを頼りに歩いてきた民族
道標を作るとは論争をし尽す事、説得するという事
- 3、中国では文化と政治は引きはがす事が出来ない
三島由紀夫等が文化大革命は学問芸術の自由を侵すと非難したがこれが日本の者の考え方
文化大革命は政治の革命でもあった
- 4、中国から東洋といえば東の海に有る日本の事
江戸時代まで日本について興味を示さない

山本七平著 「日本人と中国人」

この本の全体に流れているのは「理念としての中国と現実に中国大陸を支配している中国との二重
映像が、絶えず日本人を躓かせる
これは、陳氏の言う道標を作っていた

1章、感情国家・日本の宿痾

理解不能の日中国交回復
日華平和条約の破棄について
田中総理・周恩来総理会談記録を読んで
日本国民の間には台湾に対する同情があるという事実を無視することはできないとある
感情が条約に優先したわけではないと思う

3章、尊皇思想の誕生

竹内式部頼末
中国の文化的支配権からの独立宣言これが明治の教育勅語である
これは、7章の逆転する中国像の「日本外史」よりきているのかも

6章、朝鮮の後ろには中国がいた

新井白石が朝鮮来聘使問題に見せた傑出した外交感覚
日本の基準で日本を見、中国の基準で中国を見て交渉する

7章、逆転する中国像

平田篤胤について

8章、中国を忘れた日本

田沼時代から明治維新へ
儒学の権威を無視した最初の権力者は田沼意次